

マイテイスライダ― 取扱説明書

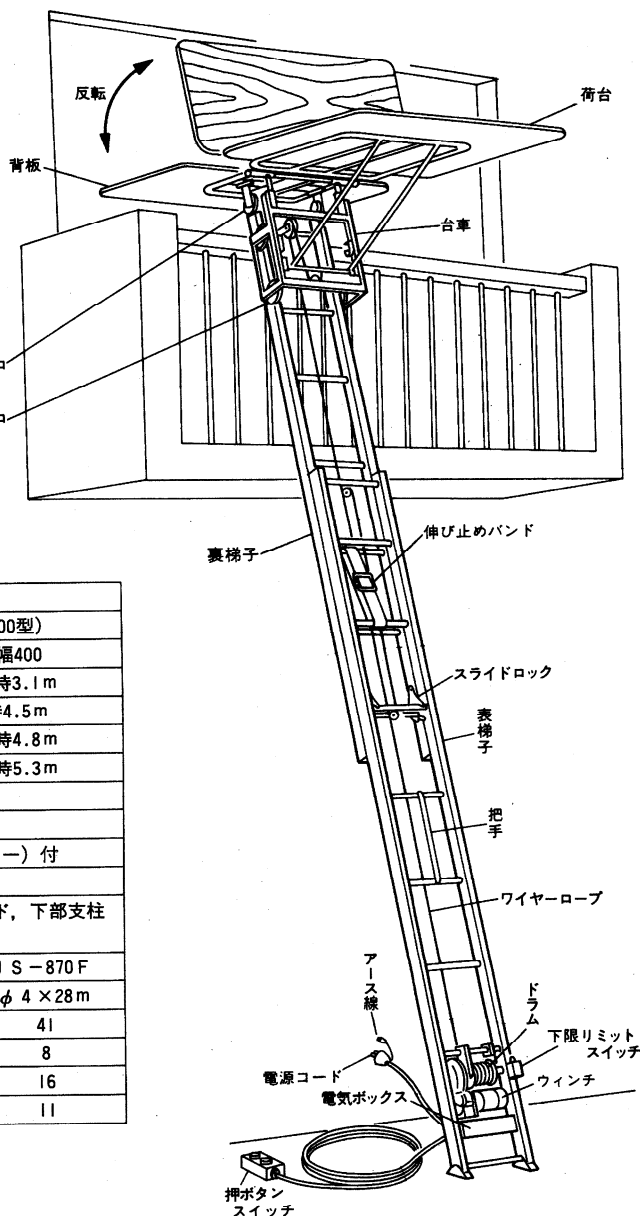
KS-400ウィンチ付

JS-480F

JS-2F

JS-3F

JS-870F



■仕様及び諸元

電 源	一般家庭用単相100V・電源コード1.5m (アース線つき)				
動 力	400W直流モーター, メカニカルブレーキ付ウィンチ (KS-400型)				
梯子本体形状	電動スライド式2連梯子 台車組込形 □型70×30×2t(mm)外幅400				
梯子長さ	480F	(4.8m)	3.2m~4.8m	400mmピッチ 5段階調整 収納時3.1m	
	2F	(7.0m)	4.6m~7.0m	400mmピッチ 7段階調整 収納時4.5m	
	3F	(7.7m)	4.9m~7.7m	400mmピッチ 8段階調整 収納時4.8m	
	870F	(8.7m)	5.5m~8.7m	400mmピッチ 9段階調整 収納時5.3m	
積載荷重, 速度	120kg-14m/分				
標準使用角度	60°~80°				
操作方法	押しボタン遠隔操作, 1.25mm ² ×3芯×10mコード(平コネクター)付				
荷台寸法	折りたたみ式 巾900mm×奥600mm×背450mm				
安全装置	過荷重防止クラッチ, 下限リミットスイッチ, 伸び止めバンド, 下部支柱 (3F・870F), 非常用手巻ハンドル				
型 式	JS-480F	JS-2F	JS-3F	JS-870F	
ワイヤロープ	φ4×17m	φ4×23m	φ4×25m	φ4×28m	
重 量 (kg)	梯子本体	33	37	39	41
	ウィンチ	8	8	8	8
	荷台	16	16	16	16
	下部支柱	-	-	11	11

取扱上の注意 (まず取扱説明書本文と機械本体に貼って)

(あるラベルすべてに目を通して下さい。)

- ① 運転開始時、ワイヤロープが正常な位置にあるかどうかを確認して下さい。
- ② スライドロックのかかりを常に確認して使って下さい。必ず伸び止めバンドを使って下さい。
- ③ 梯子上端部と建物側をロープ等で必ずしばって(固定して)下さい。
- ④ 特に2階もしくは3階で押ボタン操作をするとき、コードを台車に引っ掛けないようにして下さい。
- ⑤ 梯子伸縮時は必ず把手を持って下さい。表梯子のステップを持つと必ず手をはさみ危険です。
- ⑥ 押ボタンは確実に押しこむか、確実に開放して下さい。
- ⑦ 異常時、ウィンチをはずす場合は、台車を最下部まで下げてははずすこと。途中位置のままウィンチをはずしますと、台車が落下し大変危険です。尚、停電、故障などで押釦操作にてウィンチが動かなくなり、台車を動かす必要が生じた場合は、ラベルに表記してあるとおり付属の手巻ハンドルでウィンチを操作して下さい。
- ⑧ 雨天又は水のかかる時には、ウィンチ、電気ボックス、リミットスイッチ、押ボタンに水がかからぬよう、適当なシートなどをかぶせ、漏電防止に努めて下さい。
- ⑨ ワイヤロープに異常はないか常に点検して下さい。ドラムのワイヤが乱れた時は整列させてください。
- ⑩ 荷台に乗っての昇降はキケンですので絶対にしないで下さい。また荷台昇降中に梯子の真下に立たないで下さい。
- ⑪ 運搬中は台車を固定バンドで固定し、ウィンチ、電気ボックスにはカバーをして下さい。(電気関係は完全防水ではありません。)

製造元 トヨコーケン株式会社

1. 梯子の伸ばし方

伸ばし方

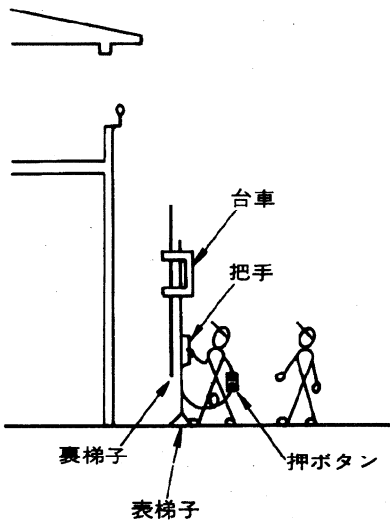
- ① 把手を持って梯子を垂直に立てる。
 - ⑥：ステップ(棧)を持つと、手をはさみ、危険!
- ② ① ボタンを押す。
 - 把手→台車→把手と、台車の上昇にあわせて持ちかえる。
 - なれないうちは、持ちかえのときに一旦止めて裏側から梯子をささえてもらう。
- ③ 台車が最上部に達すると裏梯子と台車が一体となって裏梯子が伸びはじめます。
- ④ 適当な長さで、押ボタンによる電動操作で裏梯子を上下しながらスライドロックを掛ける。
 - スライドロックは、次項参照のこと。
 - 伸ばしすぎの場合、ストッパーにて、梯子の上昇は、止まり、過荷重防止クラッチがすべりますが、通常は伸ばしすぎない様にして下さい。

収納時

まず押ボタンで台車を最上部まで上げて、次項の要領でスライドロックをはずし、裏梯子を収縮させて更に台車を下までおろす。そして伸び止めバンドで台車を固定する。

④ ○ ステップ(棧)を持つと、手をはさみ危険!

○ JS 3 F と JS 870 F は梯子を伸ばすと同時にロープ3階からひっぱり上げ、倒れないように行って下さい。
 ☆ 過荷重防止クラッチとは：所定重量以上の力がロープにかかるるとすべるようにする目的の安全装置です。

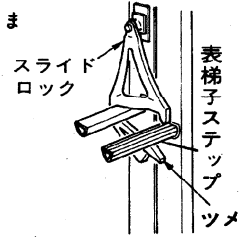


2. スライドロック

スライドロックは、下図の様に、400mmごとに調整できます。

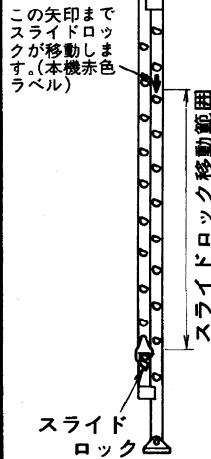
スライドロックの掛け方

1. 押ボタン④を押し裏梯子を上げる。
2. 表梯子のステップにツメがかかったら、いったん止める。
3. 押ボタン⑦を押し裏梯子を少し下げるとスライドロックが掛かる。



スライドロックのはずし方

1. 押ボタン④を押し少し裏梯子を上げる。
2. ツメがそのステップからはずれたらいったん止める。
3. そのまま⑦ボタンを押すと台車と共に裏梯子が下りてくる。



- ④ スライドロックのかかりを常に確認して下さい。はずれたままのぼったりすると危険!
- ⑦ スライドロックは、左右共必ずかけて下さい。

3. 梯子の設置

☆窓、ベランダ等の場合

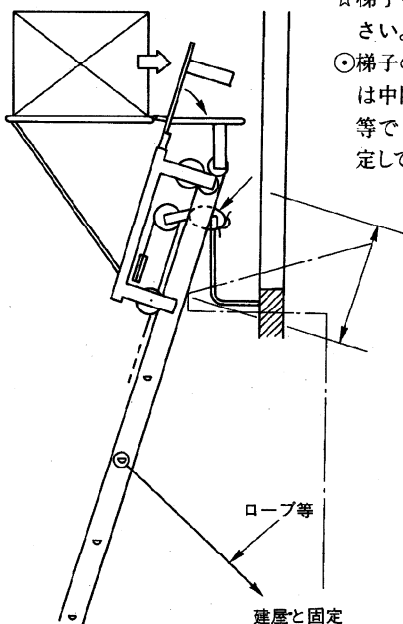
- 出来るだけ梯子を低くした方が荷物の引込みが楽です。

☆屋根の場合

- 軒先から500mm程度が荷物の積下ろし、梯子の安定性共に最適です。

- ☆ 梯子を固定してください。
- 梯子の上端または中間をロープ等でしばって固定してください。

上端を固定しないで使うと倒れやすく危険!



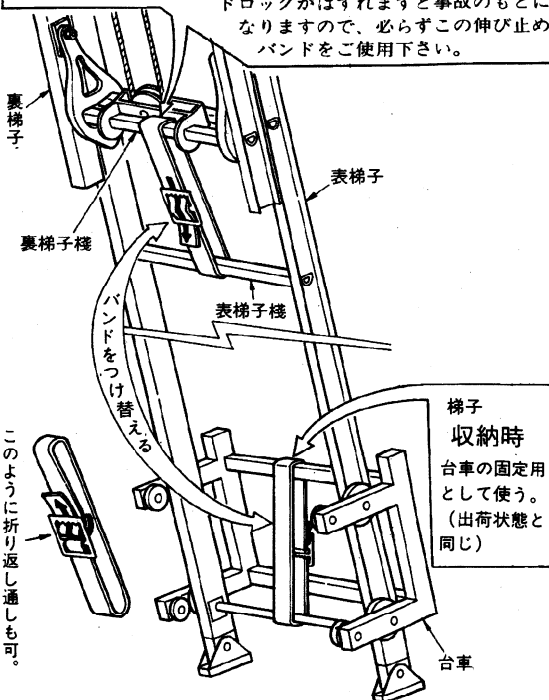
4. 伸び止め(固定)バンドの使用法

☆本品を取付けてから作業を始めて下さい。

裏梯子の最下位置の棧(滑車ブラケットとのスキマを通して)とその下の表梯子の棧を縛って下さい。(上は必ず裏梯子の棧、下は必ず表梯子の棧にしませんと伸び止め防止になりませんのでくれぐれも注意願います。)

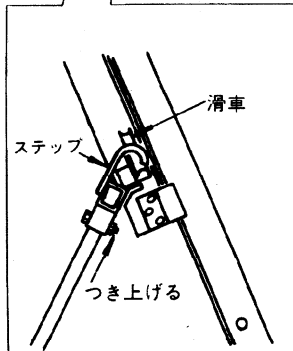
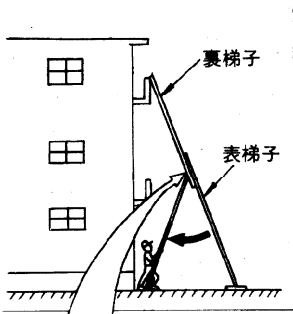
梯子
使用時

- ④ 作業中、裏梯子の伸びすぎによりスライドロックがはずれますと事故のもとになりますので、必ずこの伸び止めバンドをご使用下さい。



5. 支柱のとりつけ (3F/870F)

上記機種は
下部支柱を張って下さい。



梯子のたわみをとるように
(図参照)つきあげ、右図③
のYボルトで固定する。

- ①裏梯子下端ステップに支柱先端を引掛ける。
- ②表梯子には掛けないこと(台車の通過時に当たります。)

②梯子のたわみがとれる位置まで左右均等に張る。

③Yボルトにて固定する。

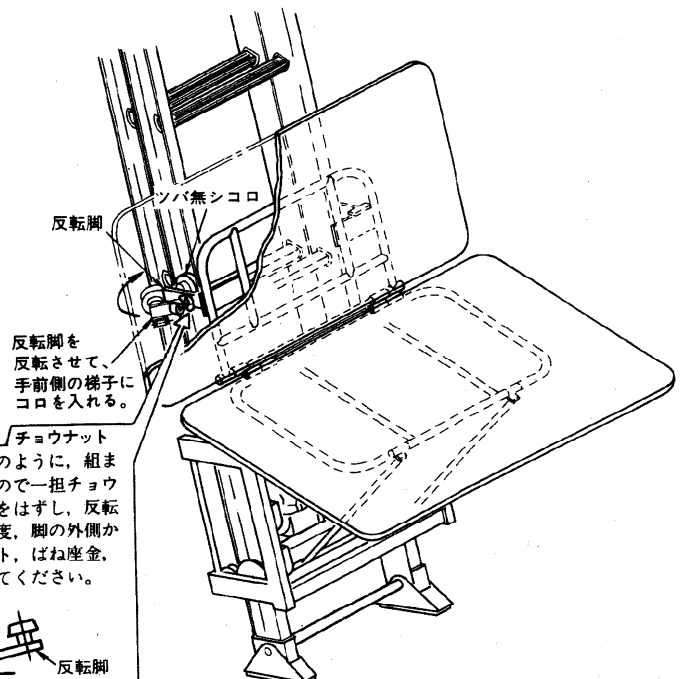
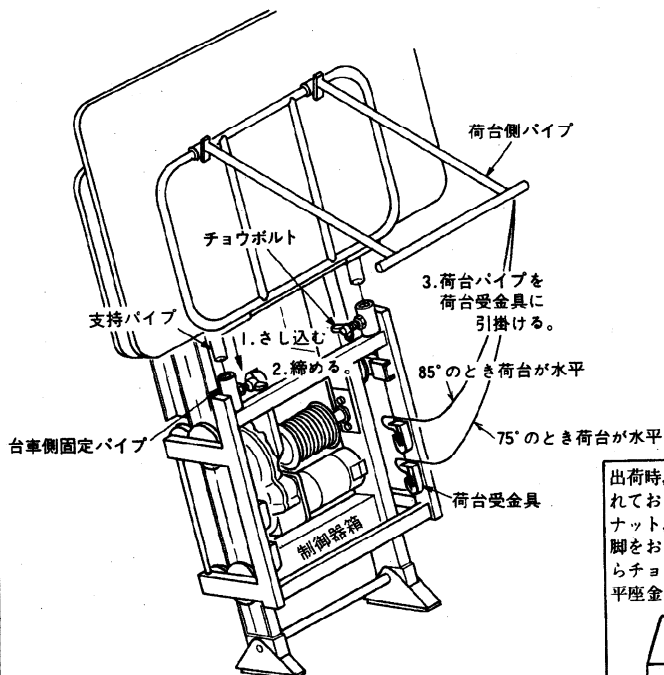
④たわみがとれない場合は支柱を持ち上げモーター側に移動する。



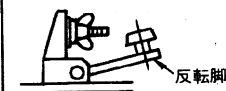
6. 荷台の取付け

1. 荷台を折りたたんだ状態で荷台側パイプを台車側固定パイプにさし込む。(反転脚を開いておく、下図参照)
2. チョウボルトで固定する。
(M10×20ℓ)

3. 荷台パイプを梯子の角度にあわせ台車の荷台受金具に引掛ける。
4. 反転脚を反転させて手前側の梯子にコロを入れて、チョウナットで固定する。



出荷時、下図のように、組まれておりますので一担チョウナット、座金をはずし、反転脚をおこし再度、脚の外側からチョウナット、ばね座金、平座金を入れてください。



7. ウィンチの脱着

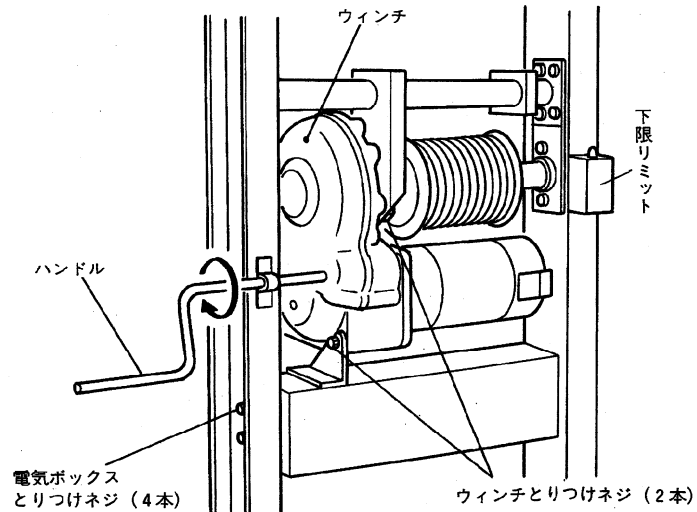
1. ウィンチの脱着について (梯子の裏側から行います。)

- ①通常、ウィンチは、固定装着したままで、運搬、使用します。
- ②ただし故障やメンテナンスのためには必ず必要が生じた場合は、次の要領で行ないます。
 - まずウィンチが動く時には、台車を降ろしてからウィンチをはずします。
 - ウィンチが動かない時には、コンセントを抜いて、制御器箱の裏に格納してあるハンドルをウィンチ穴に差し込み、手で回して台車を下げてからスパナでウィンチとりつけネジ (2本) をゆるめて、ウィンチを横に抜いて下さい。

2. 電気ボックスの脱着について

同様に電気ボックスをはずす場合は、梯子チャンネル内のネジ (4本) と、下限リミットを梯子リップにとりつけてあるネジ (2本) をはずして下さい。

- * ウィンチの脱着は台車を降ろしてから！
- * ハンドルを差したまま絶対運転しないこと！



ウィンチ操作上の注意事項

1. 過負荷をしない

積載荷重は定格120kgです、過積みはモーターに負担をかけます。

2. 過度のインチャング操作はしない

インチャング操作とは、極めて短時間に起動、停止を行う操作で、モーター及び制御器内部品に過電流が連続的に流れますのでモーターの性能劣化や、リレーの接点溶着の原因になります。

3. 急な逆転操作はしない

巻込みから巻戻し、または逆の巻戻しから巻込みの操作は停止しないとできないインターロックが組み込まれてますが、過度の急な逆転操作は2項同様の状態となり故障の原因となります。

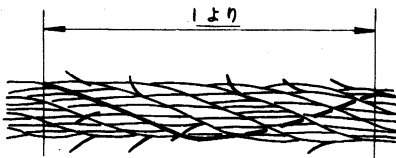
4. 電圧降下状態では操作しない

定格負荷運転時でもAC100V±10%になる様な電源状態の長さ、太さのケーブルに接続して下さい。電圧降下状態では性能が出ませんし、故障に継ぎます。

☆保守点検☆

1

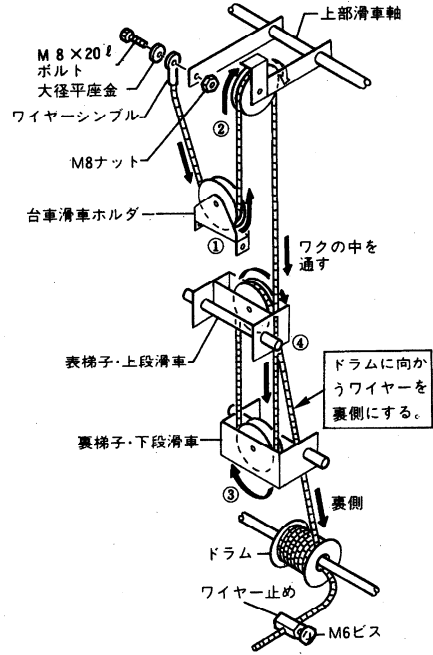
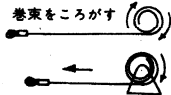
ワイヤーにささくれ(素線切断)が生じたら交換して下さい。



上記の様に1よりで、10本以上素線が切断したら交換して下さい。

◎ワイヤーの通し方

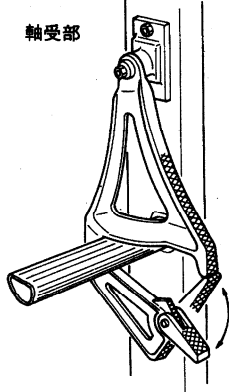
1. ワイヤーをころがす様にのぼすか、(ゴミの付着に注意) 回転してほどける様にするかして、ワイヤーがもつれない様しておく。
2. シンプルのない側を持ち、上部より台車①のホルダーの中を左から右にとおし②に向ける。
3. ②→③→④と右図の向きでとおす。②からは表裏梯子の間をとおす。
4. ④からドラム裏側にもってゆく。
5. ドラムの穴に通し、エンド金具で固定する。
6. シンプルをボルトにて固定する。
7. ①ボタンにて、整列させながら、巻取る。



2

スライドロック、台車、荷台、本機の回転部分に給油して下さい。特に必要な部分には、**給油**のマークがあります。

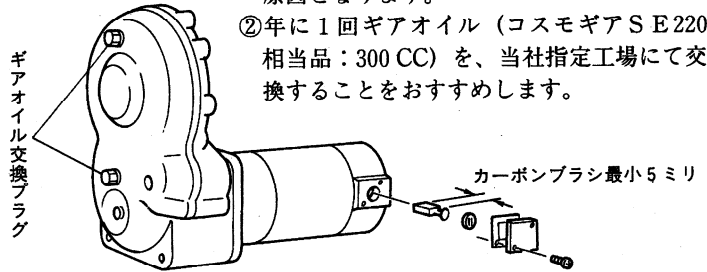
スライドロックを円滑に作動させる為、斜線部分への油塗布、軸受部への給油をお願い致します。又、スライドロックの相手のステップについてドロ・砂等も同時に清掃して下さい。



3

カーボンブラシの点検とギアオイルの交換

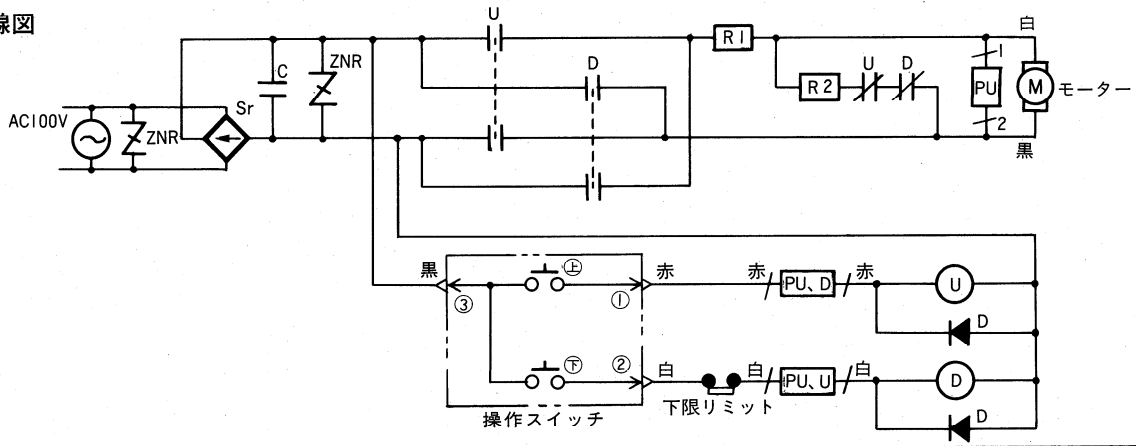
- ①年に1回程度、カーボンブラシの摩耗状態を点検し、カーボンブラシが5ミリ以下になったら当社純正品と交換して下さい。摩耗したまま使用しますと、モーター故障の原因となります。
- ②年に1回ギアオイル (コスモギア S E 220 相当品: 300 CC) を、当社指定工場にて交換することをおすすめします。



故障の手引

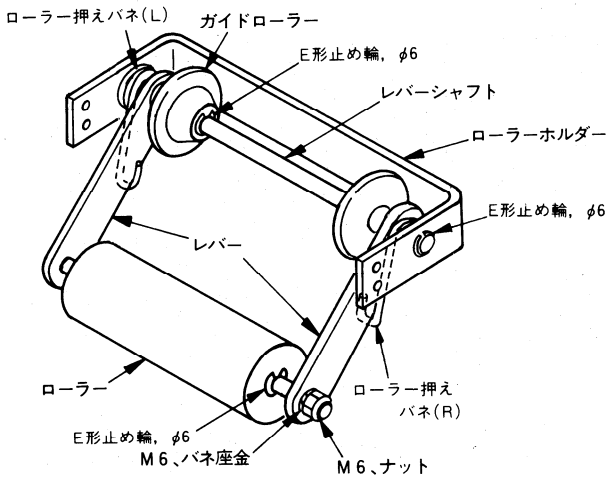
症状	原因	処置	症状	原因	処置
ボタンを押しても動かない	電源がきていない。 電源プラグ又は電源コード、操作コードの断線	修理	巻上速度が遅い 定格荷重が巻上がらない	オーバーロード 電圧低下	荷を軽くする 電源コードを太くし定格電圧にする
	オーバーロード又は使過ぎによるモーター焼損	交換	漏電ブレーカが動作するか	オーバーロード又は使過ぎによるモーター焼損	
	整流器パンク	交換			
	コネクターの接続が不完全か、破損	点検・交換	本体に触るとビリビリ電気が来る	モーターや操作スイッチへの浸水	ウインチをホースなどで丸洗いはしないこと
	電圧降下	点検	ギヤケースよりガラガラ音が発生する	オイル漏れによるオイル不足	オイル及びオイルシール交換
	モーターのブラシ摩耗	交換		ギヤケースをぶつけて変形させた時	交換
スイッチを切ってから停止するまでの距離が長くなった	ブレーキ・ライニングの摩耗	交換	巻下ボタンを押しても動かない	下限リミットが動作しているか	修理
	発電制動用抵抗の断線	修理		リミットコードの断線	
	電圧が高い	発電機であれば定格電圧に調整する			

配線図

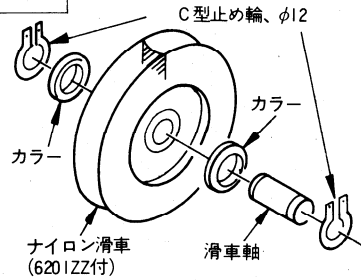


パーツリスト

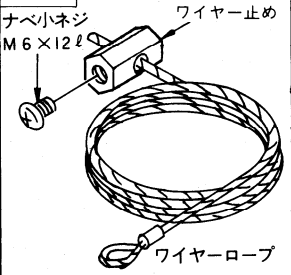
A ワイヤープッシャーローラーセット



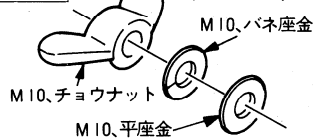
B ナイロン滑車セット



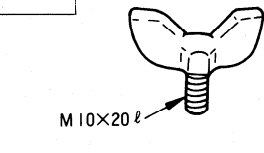
C ワイヤロープセット



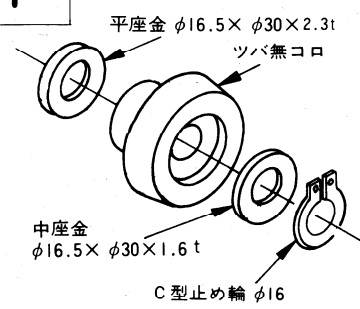
D チョウナットセット (反転脚用)



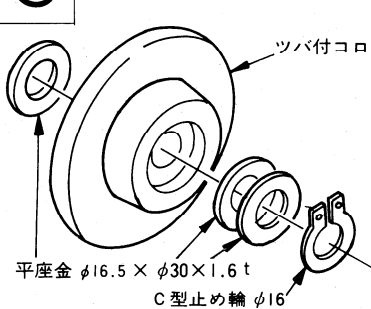
E チョウボルト (荷台固定用)



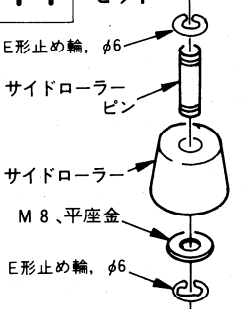
F ツバ無コロセット



G ツバ付コロセット



H サイドローラーセット



I スライドロック (右, 左)

